

2013世界大学ランキング

順位	大学(国名)	前回
1	カリフォルニア工科大(米)	1
2	ハーバード大(米)	4
2	オックスフォード大(英)	2
4	スタンフォード大(米)	2
5	MIT(米)	5
6	プリンストン大(米)	6
7	ケンブリッジ大(英)	7
8	カリフォルニア大パークレ ー校(米)	7
9	シカゴ大(米)	10
10	インペリアル・カレッジ・ ロンドン(英)	8
23	東大(日)	27
26	国立シンガポール大学	29
43	香港大	39
44	ソウル大(韓)	58
45	北京大(中)	49
50	清華大(中)	57
52	京大(日)	54
125	東工大(日)	122
144	阪大(日)	143
150	東北大(日)	137
201~225	名大(日)	201~
201~225	首都大東京(日)	251~
276~300	東京医科歯科大(日)	276~
301~350	北大(日)	301~
301~350	九大(日)	301~
301~350	筑波大(日)	301~

# 大学活用法

## 企業の産学連携戦略

「日本酒復権に新スタイルで勝負」。菊正宗酒造と時間、コストを要する。現在、国内でも五指ほどの老舗酒造しかできない、まだ。拠点を構える神戸市東灘区と同灘区、兵庫県西宮市の一部は酒蔵が多く、灘の生一本」など数多くのロングセラー商品があるが、高橋俊成総合研究所長は「日本酒の需要低迷に危機感が強い」と打ち明ける。50年以上にわたって酒づくりが受け継がれている。菊正宗酒造は「生もと」と呼ばれる天然の乳酸菌を用いる手法で日本酒をつくる。そこで産学連携で手を組

□48□

### 菊正宗酒造



科学技術省バイオテクノロジー庁(DBT)と健康・医療分野に関わる共同研究ラボトリーを設立すると発表した。インドの生物資源から抗がん剤候補分子を特定して作用メカニズムを解明し、抗がん剤としての最適化を目指す。共同研究の開始時期は約2カ月後。DBTから3年間で計約1

共同ラボは茨城県つくば市の産総研つくばセンター内に設置し、相互に常駐研究員を派遣する。1年目にインドの生物資源ライブラリーを構築して抗がん剤候補分子の特定を行い、2年目に候補分子の生理活性や薬効メカニズムを解析。3年目以降には、DBT内の共同ラボを活用して動物実

験を目指す。産総研の持つ生理活性物質の探索技術と生体イメージング技術、DBTの生理活性物質の動物評価技術やIT創薬技術など、双方の強みを生かして新規がん治療法の開発を目指す。

**新たな分子機構解明**  
新潟大学大学院歯学 糖尿病 新潟大炎症関与たんぱく質特定  
新潟大学大学院歯学 総合研究科の南野徹教授 化により「セマフォリン3E(セマ3E)」という発症の新たな分子機構を うたんぱく質が多量に分

んだのが関西大学化学生命工学部の老川典夫教授。老川教授は酵素工学が専門でアミノ酸の研究に取り組んでいる。アミノ酸には化学

要な働きをしていること

はつまみに寄与するD-ア

「生もと」はコメ 着目していたため「D-アミノ酸濃度を高めた菌を選

スパラギン酸、D-アラニンを生かした販促力が不足しがちだった。このため菊正宗酒造は正面からの改革を断行した格好だ。現在は、肌

# アミノ酸で伝統製法に風穴

## 科学技術・大学

(林武志)